

知りたいことにお答えします

図書館では、「こんなことを知りたい・調べたいが、何の本を見たらいいのか？」というような質問にもお答えしています。調べものをする時や、ふとした疑問を解き明かしたい、そんな時もありますね。ぜひ図書館を使ってください。例として、利用者のみなさんから寄せられた質問と回答を紹介します。



Q. 渡辺謙主演の映画の原作で、認知症がテーマの小説



A. 『明日の記憶』荻原浩／著（光文社）
※若年性アルツハイマーがテーマ

Q. 郡上節の歌詞が知りたい



A. 『日本民謡事典』（全音楽譜出版社）に十種類の郡上節あり。

Q. 「きんのおの」が載ってる本



A. 『イソップのおはなし』（のら書店）などのイソップ童話集、
『母と子のおやすみまえの小さなお話 365』（ナツメ社）など。

Q. 猿の毛づくろい（グルーミング）の理由は何か知りたい



A. 『総合百科事典ポプラディア 3』の「グルーミング」の項、
『ひと・どうぶつ行動観察じてん』（福音館書店）など。

Q. 木曾川の珪化木について知りたい



A. 『可児市の文化財 第8集』に化石林・珪化木の記述あり。



ホームページ一時停止のお知らせ

工事による停電のため、図書館のホームページが表示できなくなります。
日時：8月28日（金）午前8時30分～11時
（作業状況により時間が多少前後することがあります）

職員のおすすめ《この書き手に注目！》

知念 実希人

（ちねん みきと 1978年沖縄県生まれ）
東京慈恵会医科大学卒。内科医。2012年『誰がための刃 レズンデートル』で「第4回ばらのまち福山ミステリー文学新人賞」を受賞し、作家デビュー。その他の作品に『優しい死神の飼ひ方』（光文社）『天久鷹央之の推理カルテ』シリーズ（新潮社）がある。

今回紹介する作品は、『改貌屋 天才美容外科医・柗貴之の事件カルテ』（幻冬舎文庫）です。

金さえ積めばどんな手術でも引き受ける天才美容外科医柗貴之の病院に、大学院生朝霧明日香が麻酔科医としてバイトをすることに。軽薄な柗に反発を覚えるものの、彼の高度な手技は認めざるをえなかった。美容外科には抵抗があるものの手術を受けた患者を見ると明日香の気持ちに変化が…。しかし4年前に起こった連続殺人事件に柗が関係していることを知り、明日香は不信感を深める。

現役医師作家が放つ、新感覚医療ミステリーです。
（帷子分館 溝口）

出久根 達郎

（でくね たつろう 1944年茨城県生まれ）
杉並区で古書店「芳雅堂」を営む。そのかたわらで作家デビュー。1992年に『本のお口よごしですが』（講談社）で第8回講談社エッセイ賞受賞。1993年に『佃島ふたり書房』（講談社）で第108回直木賞を受賞。他の著書に『本と暮らせば』（草思社）、『七つの顔の漱石』（晶文社）など。

私がおススメする本は、『短篇集 赤い糸』（三月書房）です。

小気味良い江戸言葉で綴られたお話です。この「赤い糸」で連想するのは、運命的な恋愛ですよ。本当のところは、もう少し人情があったお話で、味わい深い内容です。

男が言う。「やっぱり、おめえだった。」20年ぶりだ。忘れちゃいない…。おれは財布から紙包みを取り出した。赤い糸をつまみ上げると、「ほら」とおめえの目の前にたらしめた。おめえが、わっと泣き出した…。

この他に、10人のお話をお楽しみ下さい。

（本館 小島）

知った？
可児・岐阜県内のことが出てくる
ちょっと珍しい本

可児や岐阜県には、さまざまな名所や名品がありますね。本の中にも、珍しい情報が出てきますよ。

『風姿抄』

白洲正子／著（世界文化社）エッセイ 914 シラ

「荒川豊蔵の生活と人間」という随筆が『風姿抄』にあります。久々利の村や大萱の里の地名が出てきて、なごみます。茅葺きの田舎家、電話もひいていない荒川家でくつろいだ話、薪で焚いたお風呂場の話など、なつかしい里山の風景が語られています。

文中で紹介されている『かくれ里』という本もおすすめです。こちらも古代の歴史を堪能できる書。大萱にはリニア中央新幹線が走る予定です。古きふるさとを書き残してくださった白洲さんの随筆は可児の宝。末永く読まれて欲しいです。

（桜ヶ丘分館 日比野）

『ももたろう（可児で鬼たいじをしたももたろう）』

澤野元義／構成・文 絵本 Eモ

「むかし昔の、おおむかし、～住んでいりゃた。」と、可児の方言で語られる「ももたろう」です。聞きなれた語り口で楽しく読むことができます。

犬山の栗栖で育った桃太郎は、犬・猿・雉をお供に連れて、可児の鬼ヶ島へ行き鬼を退治してきます。桃太郎一行が辿る行程が、現在の犬山、各務原、坂祝、美濃加茂、可児、と地名が一致します。地図を見ながらお話を読むのも面白いと思います。

（帷子分館 溝口）

『虚貌』

雫井脩介／著（幻冬舎）小説 913 シズ

『犯人に告ぐ』・『クローズド・ノート』などの作品が有名な著者ですが、デビュー2 作目に岐阜県を舞台にしたミステリーを書いています。美濃加茂で起きた殺人事件が発端という事で、このあたりの方言で会話が交わされ、可児市下切、可児署、太田橋、加茂署、美濃加茂高校、四十一号線、飛水峡…など身近な名称が頻りに登場します。（あまり殺人事件を身近に感じるのも、考えものですが…）

執筆するに当たって、ずいぶん現地調査をしたのでは……と、思われます。著者は愛知県出身ですが、この地方に何か縁があるのでしょうか？

（本館 可児）

『バードウォッチングガイド in ぎふ』

（財）日本野鳥の会岐阜県支部／編 自然 488 パ

私たちが普段見かける野鳥と違ってすぐ頭に浮かぶのは、スズメ、カラス、ハト、ヒヨドリぐらいでしょうか。しかし、実はいろいろな種類の野鳥が日本に生息しています。

今回ご紹介する本『バードウォッチングガイド in ぎふ』は、県内のバードウォッチングのポイントを地図で示し、そのポイント毎に、探鳥の適期、モデルコースガイド、鳥のイラスト、交通案内、モデルコース図などが見開きページに描かれています。可児市については、可児市老人福祉センター「可児川苑」をスタートし、可児下流に沿って歩く 2 時間ほどのコースが紹介されています。マガモ、コガモ、カルガモ、コサギ、カワセミ、イソシギ、イカルチドリ、クサシギ、オオタカなどの他、たくさんの野鳥の姿を見ることができそうですよ。

（帷子分館 磯道）

『浅田次郎と歩く中山道

「一路」の舞台をたずねて』

浅田次郎／著（中央公論新社）紀行文 915.6 アサ

この本と小説『一路』をガイドブックとして、中山道を歩いてみてはいかがでしょうか。昔日の面影を今に留める中山道には数々の見どころがあります！この本には、中山道六十九次全図に宿場ごとのエピソードや見どころ、名物・お勧めコースなどが載っています。当時の参勤交代、大名行列に思いをはせては…。

（本館 小島）

『郡上一揆外伝 ほか三篇』

古川のぶ／著（大衆書房）小説 913 フ

郡上の歴史話 4 編のうち「東家十三代と周辺の歴史」という話があります。郡上に 13 代 340 年あまり君臨してきた東家の話です。

源頼朝の鎌倉幕府創業に尽力した家系で、戦国時代に大地震により城が崩れ、城下とともに家族家臣、全てが地中深く埋没し完全に滅びてしまいます。都から遠く離れた地でも日本の歴史に関わり興亡があったことを実感できるでしょう。

そして森蘭丸、土田御前以外にも織田信長と関わりがあった人物が可児市出身であったことが記されています。改めて郷土の歴史ロマンを味わってみてはいかがでしょうか？
(帷子分館 濱口)

『乱丸』上・下

宮本昌孝／著（徳間書店）小説 913 ミヤ

金山城に生まれた少年、森乱（蘭）丸。その才知と器量を認められ、織田信長の近従となり、信長の最期の時まで共にあったといわれています。

上巻 1 章では、幼き乱丸と家族が金山の城で過ごした日々が語られます。そして第 2 章、信長に仕えるため、乱丸は金山^{かねやま}湊から船に乗り、木曾川を下って岐阜城へ。木曾川と並走している現在の国道 21 号線沿いの風景を見ていると、乱丸少年も期待と不安の入り混じった気持ちで同じ景色を見ていたのかも…と思わずにはいられません。時は過ぎても変わらぬ郷土の美しい景色は守ってゆきたいものです。
(帷子分館 福井)

『ゴースト・スナイパー』

ジェフリー・ディーヴァー／著（文芸春秋）

外国文学 933.7 デ

翻訳小説で、意外な「岐阜」を発見しました。「ゴースト・スナイパー」は、アメリカの作家ディーヴァーの人気シリーズ最新刊です。毎回あっと驚くどんでん返しがある有名なサスペンス小説。

今回の犯人は料理が趣味で、使うナイフにもとてもこだわりがある男。そのナイフのメーカーが岐阜県関市の貝印、「旬」シリーズのものでした。ナイフといっても「包丁」です。勿論、犯人は料理だけにこのナイフ（包丁）を使うわけではなく、料理に活躍するナイフさばきは人間にも…。

到底犯人には共感も同情もできませんが、ナイフを「使う」シーンがでてくるたびに、ついつい注目してしまう岐阜県民です。
(帷子分館 瀬尾)

『思うところありまして』

可児のくろひげ獣医』

石黒利治／著（デックブックス）産業 649.0 イ

可児市で動物病院を開業している著者が、岐阜新聞に連載したエッセイを中心にまとめたものです。

来院する患者や、その飼い主と出会う中で感じたことを、歯に衣着せぬ言葉で綴っています。その率直な言葉は、動物を飼うことの責任の重大さや、自然動物とどのように関わることが、本当に動物を愛するということなのかを、時に厳しく、時に暖かく教えてくれます。動物を飼っていてもいなくても、楽しめるエッセイとなっていますが、これから動物を飼おうと考えている方には、ぜひ飼い始める前に読んでいただきたい本です。

(本館・篠田)

『岐阜県謎解き散歩』

山田敏弘／編著（新人物往来社）地理 BY 291.5 ヤ

小学校で使う漢字ドリル・計算ドリルの「カド」「ケド」という略称、他県では使わないって知っていましたか？岐阜に関するそんな小ネタが満載です。日本列島のほぼ真ん中にありながら、岐阜は地味で存在感がないと自認している県民に、誇りを持って自県を語ってほしいとの願いで編まれた一冊。

読了後は、誇りというより「岐阜ってやっぱりこんなかんじ…」という微妙な気持ちになるかもしれませんが、同時にそんな故郷へのいとしさもふつつつ湧いてくるのを自覚してしまうこと請け合い。

可児からは、歴女に人気のあのスポットが紹介されていますので探してみてくださいね。

(本館 熊崎)

『皇女の霊柩』

内田康夫／著（新潮社）小説 913 ウ

大人気の浅見光彦シリーズ。日本全国を旅しては、名探偵浅見光彦が事件を解決する旅情ミステリーシリーズですが、このお話の中ではお馴染みの愛車ソアラに乗って八百津町を訪れているのです。中央自動車道多治見インター、国道 41 号、特に八百津町の事は詳しく書かれており、八百津高校に名鉄八百津駅、そして美味しいものには目がない浅見光彦らしく八百津せんべいも出てきます。

私たちの住む街の近くを浅見光彦が訪れたのかと思うと、愛読者としてはすごくワクワクします。中山道の妻籠・馬籠宿を舞台に中山道を通って降嫁された皇女和宮の柩にまつわる事件。岐阜県の地名もいくつか出てきて馴染みやすいお話です。

(本館 樫山)

『銅像めぐり旅 蘊蓄紀行』

清水義範／著（祥伝社）**紀行文 915 シミ**

愛知県出身の著者がカメラ片手に東西奔走！博学であり、人気作家でもある著者が各地を歩いて銅像と対面し“街の偉人と銅像の関係”について考察していく紀行本です。

この中の「四の旅」に岐阜県が出てきます。岐阜城の二階に織田信長の座像が常設展示されているということで写真も掲載されていますが、実物の信長に近い面をしているようですので、一度見る価値はあるかも？また金華山や柳ヶ瀬商店街などを歩いたようです。この本を読んで著者が歩いたように岐阜の街をめぐってみてはいかがでしょうか？

（桜ヶ丘分館 小島）

『日本の神話・伝説が面白いほどわかる本』

（新人物往来社）**宗教 164.1 ニ**

巻末に別冊「全国伝説・伝承地一覧」が付されており、岐阜県も掲載されています。御嵩町の願興寺（御嵩駅のそば）近くに領主が悪人の首を埋めた話、各務原市の「浦島太郎」によく似た話など、興味深い伝説が身近にいくつも残っています。

また「明智光秀」の章があり、一般的には本能寺の変の直後農民に殺されたといわれる光秀の、生存説がいくつか取り上げられています。そのうちの一つに、今の山県市の山中で農民となって生きながらえたというものがありました。可児市出身ともいわれる明智光秀に関する伝説で、いっそう興味深く読むことができました。

（本館 井林）

『しいたけブラザーズ 日本一のしいたけ栽培に命を懸ける横田三兄弟物語』

藤本美郷／著（飛鳥新社）**産業 657.8 フ**

加茂郡川辺町にある昔ながらの原木栽培をつらぬくしいたけ農家。

「日本一のしいたけ屋」を目指す父のもと、幼いころから生活のすべてがしいたけ漬けの子どもたちは、その反動で皆それぞれの道を歩み始める。しかし突然父が病に倒れ…。「オヤジの夢を叶えるのは俺らしかない」。故郷に舞い戻った兄弟たちはどん底からの経営再建を目指す…。

テレビでも紹介された、地元で有名なしいたけブラザーズの感動のノンフィクション。巻末にはおいしいしいたけレシピも収録。地元で活躍する人たちを応援したくなる本です。

（桜ヶ丘分館 角）

『美濃牛』

殊能将之／著（講談社）**小説 913 シュ**

岐阜県の奥美濃にある村が舞台のミステリーです。フリー記者の天瀬は、不治の病を治すという奇跡の泉を取材するため、暮枝（くれえだ）村へ向かう。だが、泉のある鍾乳洞の前で、死体が発見されたのをきっかけに、次々と起こる殺人事件に巻き込まれていく…。

暮枝村は架空の村ですが、岐阜県内のなじみある地名や自然が多数出てきて、親しみを感じます。二転三転する展開と、個性豊かな登場人物の活躍に、つい引き込まれ、どんどん読み進めてしまうと思います。暮枝村で起きた連続殺人事件を、あなたもぜひ推理してみませんか？

（帷子分館 東）

『かみのしごと 和紙の里・美濃のはなし』

（ラトルズ）**技術 585 カ**

昨年、美濃和紙がユネスコ無形文化遺産に登録されました。

この本は、美濃和紙が、何でできていて、道具はどんなものなのか、和紙のできるまでを絵にしてわかりやすく説明してあります。また、15人の職人さんの物作りの心意気にふれ、可児市出身の若い担い手が育っている様子もわかります。

丁寧に作られる美濃和紙を生活に取り入れてみませんか。また美濃の街並みをゆっくり歩いてみてはいかがでしょうか。

（桜ヶ丘分館 高田）

『日本の山城100名城 有名城郭から知られざる廃城まで』

（洋泉社）**建築 521.8 ニ**

日本には、天守閣や石垣のある城だけでなく、土から成る「山城」がたくさんあります。そして可児市にも、「美濃金山城（みのかねやまじょう）」があるのをご存知ですか。兼山の街並みや木曽川を見下ろすことができ、山頂には本丸の礎石があります。また、県内には岐阜城や苗木城、岩村城など、ユニークな特徴のある山城がありますよ。

どのように城を守り、戦ったのか。どこから攻めたのか。そんな想像をしながら歩くことができる山城を、平面図も含めてきめ細かく紹介したガイドブックです。

（本館 長谷川）

あなたも見つけてみませんか？

図書館で借りた本の中に、可児やこの近辺に関わる記事がありましたら、ぜひ図書館職員へお知らせください。

あたらしく入った本

分類	書名	著者名	出版者名
歴史・地理			
210.7	チ 「知覧」の誕生 特攻の記憶はいかに創られてきたのか	福間 良明	柏書房
	なぜ、人は知覧へと引き寄せられるのか。毎年数十万の人びとが訪れる「特攻の聖地」知覧。特攻戦跡として戦後「発見」され、いまなお訪問者を増加させているプロセスを、メディア、観光、ジェンダーなどの視点から考える。		
215.5	シ 昭和の名古屋 昭和20～40年代	名古屋タイムズ・アーカイブス委員会	光村推古書院
	懐かしさと思いをくすぐる栄、名駅の街並。天守閣のない名古屋城。中区鶴重町の歓楽街…。終戦の翌年、名古屋に産声を挙げた夕刊紙「名古屋タイムズ」の報道写真で構成した、懐かしさあふれる写真集。		
社会科学			
365.3	グ 軍艦島の生活〈1952／1970〉 住宅	西山卯三記念すまいまちづくり文庫	創元社
	戦後2度にわたる、端島住宅調査を発掘再編。未公開写真を中心に、スケッチ、図面も加え、軍艦島での高密度・高層炭鉱住宅での暮らしを紹介したビジュアル・ブック。		
367	ミ 「居場所」のない男、「時間」がない女	水無田 気流	日本経済新聞出版社
	家庭で孤立する中高年、生涯未婚者増、年約3万人の孤独死、産みたくても産めない「社会的不妊」…。「普通の幸せ」は、今なぜこれほどハードルが高いのか？気鋭の社会学者が、「時空間の歪み」をキーワードに読み解く。		
388.1	タ 山怪 山人が語る不思議な話	田中 康弘	山と溪谷社
	日本の山には何かがいる。その何かは古今東西さまざまな形で現れ、老若男女を脅かす。狐火があふれる地、マタギの臨死体験、山塊に蠢くもの…。山で働き暮らす人々が実際に遭遇した奇妙な体験を紹介する。		
395.3	タ 沖縄の米軍基地 「県外移設」を考える (集英社新書)	高橋 哲哉	集英社
	沖縄をただ自己利益のために利用してきた日本。日米安保体制は沖縄を犠牲としてのみ成り立つ「犠牲のシステム」だった。沖縄の声にアクチュアルに応答し、米軍基地移設問題に対して「県外移設」という論争的な問題提起を行う。		
自然科学・医学			
469.2	ペ ネアンデルタール人は私たちと交配した	スヴァンテ・ペーボ	文藝春秋
	ネアンデルタール人の遺伝子は、現生人類の中に生きていた！長年の試行錯誤の末に、新技術「次世代シーケンサー」で約4万年前のネアンデルタール人のDNAの増幅に成功した科学者が、30年以上の苦闘のすべてを明かす。		
491.3	カ 高学歴なのになぜ人とうまくいかないのか (PHP新書)	加藤 俊徳	PHP研究所
	偏差値の高い人が、なぜ他人を困らせるのか。罪悪感のない人が、なぜ育つのか。なぜ、被害者意識を持つのか。1万人以上の脳をMRIで診てきた著者が、脳科学者の視点から論じる。		
日本文学—小説			
913.6	オト 太陽は気を失う	乙川 優三郎	文藝春秋
	生死を分けたあの時間、男女が終わった時間、人生で最も大きな後悔と向き合う最後の時…。人生の分岐点を端正な文章で切り取った、14の芳醇な現代短編。		
913.6	コン 豹変	今野 敏	KADOKAWA
	世田谷の中学校で3年生の少年が同級生を刺す事件が起きた。取り調べで少年は何かに取り憑かれたような言動を見せ、警察署から姿を消し…。刑事と祓師が不可解な事件を追う、長篇警察小説。		
913.6	ツジ 日付変更線 上・下	辻 仁成	集英社
	祖父がハワイの日系2世で、第二次世界大戦時に日系アメリカ人部隊の兵士だったケインとマナ。マナの祖父は442部隊に所属し、欧州で戦死したと思われていたが…。戦時と現在、日、米、欧、複数の境界線が交わる長編小説。		
913.6	ナカ 院内カフェ	中島 たい子	朝日新聞出版
	どこか不安な私たちは、あのカフェで、病院の傍らにいて、癒されている。総合病院のカフェを舞台に、ふた組の中年夫婦の心と身体と病を描いた、気持ちがあふれる書き下ろし長編。		

913.6	ニレ	砂の王宮	榆 周平	集英社	昭和 22 年、闇市で薬屋を営む塙太吉は、持ち前の商才を発揮し、流通業界最大の企業を造り上げる。だが、意図せず事件に巻き込まれ…。己の信念を遂行しようと駆け抜けた男の栄枯盛衰を描く。
913.6	ヒガ	流(りゅう)	東山 彰良	講談社	1975 年、偉大なる総統の死の直後、愛すべき祖父は何者かに殺された。17 歳。無軌道に生きるわたしには、まだその意味はわからなかった。大陸から台湾、そして日本へ。一家の流浪と決断の軌跡。第 153 回直木賞受賞作。
913.6	ヒラ	ベトナムの桜	平岩 弓枝	毎日新聞出版	一攫千金を夢見てベトナムへ向かう御朱印船に乗り込んだ次介。鎖国令が発布されることを知った兄の大介もまた、弟の身を案じて異国へ向かう…。運命に翻弄される兄弟の絆を描く。
913.6	ヒヤ	100万分の1回のねこ	江國 香織 他	講談社	佐野洋子の名作絵本『100 万回生きたねこ』に谷川俊太郎、江國香織、川上弘美ら人気作家 13 人が捧げる、トリビュート短篇集。
913.6	ミウ	あの家に暮らす四人の女	三浦 しをん	中央公論新社	謎の老人の活躍としくじり。ストーカー男の闖入。いつしか重なりあう、生者と死者の声ー古びた洋館に住む女四人の日常は、今日も豊かでかましい。ざんねんな女たちの、現代版「細雪」。
日本文学—エッセイ、ルポルタージュ					
914.6	キタ	十字路が見える	北方 謙三	新潮社	肺結核を抱えて過ごした学生時代、没原稿を量産し続けた 20 代、行き詰まりを感じて新たな可能性に挑んだ 30 代…。幾度となく十字路を超えてきた著者が、人生の豊饒と黄昏を綴る自伝的エッセイ。
916	サワ	14歳〈フォーティーン〉 満州開拓村から (集英社新書)	澤地 久枝	集英社	昭和を見つめ、一貫して戦争や国家を問うてきた著者の原点となったのは、十四歳での敗戦体験だった。満州でむかえた敗戦、難民生活と壮絶な引揚げ体験。自身がくぐり抜けてきた「戦争」のすべてを、いま、赤裸々に綴る。

展 示 の ご 案 内

■ 8 / 1 (土) ~ 27 (木) ■
Bright color 展
 (フライトカラー)

(本館 1 階)

可児高校について紹介します。普段わからない可児高生の生活について知ることができます。可児高ライフが疑似体験できるかも!! (可児高等学校)

※8/4 から 27 まで一部スペースで、講座「カンタン絵本作り」の作品を展示

■ 8 / 29 (土) ~ 9 / 24 (木) ■ (本館 1 階)
認知症の方が住み慣れた地域で暮らしていくために展
 ~9月21日は世界アルツハイマーデーです~

認知症があっても安心して暮らせる社会を目指し、毎年 9 月 21 日を中心にアルツハイマー病の啓蒙を全国的に実施しています。(可児市役所高齢福祉課)

命を守る図書展 ~3万分の1の命と向き合う~

日本では自殺によって多くの尊い命が失われています。自殺予防、うつ病、命の大切さに関するパネルや図書を展示します。(可児市役所福祉課)

開館時間【本館】平日 10:00~19:00、土日祝 10:00~17:00
 ※8月27日までは、午前9時30分に開館します
 【分館】全日 9:00~17:00

休館日 毎週月曜日、毎月最終金曜日
 (8月3,10,17,24,28,31日)
 桜ヶ丘分館は8月1日(土)臨時休館します。
 お盆休みはありません。おいでください。

【予告】10月1日(木)~14日(水)は、機器更新と蔵書点検のため、全館休館します。



「図書館だより」2015年8月号

発行：可児市立図書館 編集：長谷川(本館) 電話(0574)62-5120

資料検索・予約は <http://www.tosyokan.kani.gifu.jp> をどうぞご利用ください。